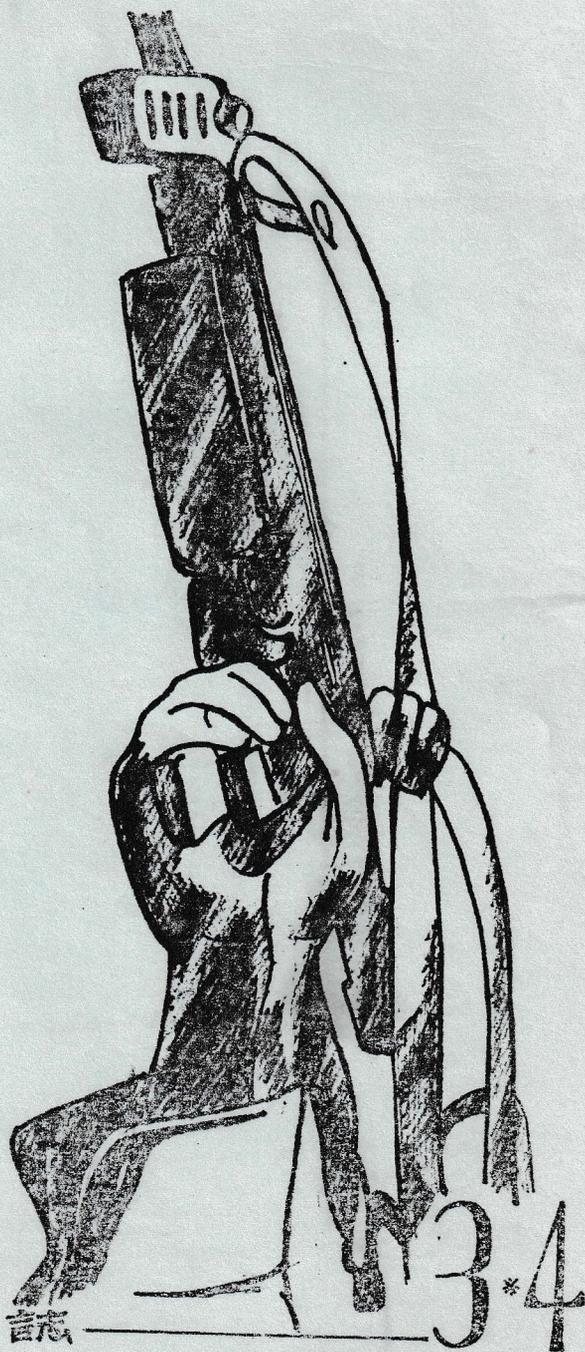


吶

喊

とつたん——南西救援会

誌 園 機



3\*4

も く じ

- 「時 賦」
- 若原龍象殿尊人の通  
隆聖の後継者としての 1/3口物成されるべき外  
村越真介
- 龍象殿の御杖打を考案する /  
臣をさまたぬ 龍人の祀事とは <後編>  
臣渡正雄
- 長「仙術とる」  
植田徳延
- 龍象殿の御杖打  
\* 完全無敵の御杖打、只今も無敵也 /  
山本徳四  
\* 龍象殿の御杖打、龍象殿にありても  
河本邦三 したる
- 龍象殿の御杖打  
\* 山本徳四の御杖打  
龍象殿に於てのみ住るを「龍象殿」に参詣を /  
添尾 徹
- \* 河本徳四  
君は一人の住るは、僕も共進主義者として住る  
一活動家
- 総集後記























「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

我々は昨秋以降の領土交渉の最中、交渉の軌道を定めてまいりました。それは今日「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」

「我々の使命はこれなり」







そこで、始めに報告とてあくまで「たか、創刊号発行以来、東京西定とれた校論同先」格にて、今号より「たか、この「叫喊」を引き継ぐ」ことになりまこと。昔には人々もする類なる教科カンパ田村用紙ではな、このころから、種々な政見を予想される位置に於て、何事をも發行と「いふ」ことばさるものな、真下にもどなり後登ではあるな、私共又、一人の共產主義者として「このころの生きた」こと願うこのころ人間である、無類のこのころ活動を通じてこそ、革命の中で、人民の中に自らを埋没させたりと願うつつ、今日も手もとに留りたはなりの原稿の補綴と時間と費やうとする。

同誌「ミンパサイヤ」の只「後登」には、後登という形で「叫喊」に参加して頂きたいと水をたである。

△真△

叫喊の口頭

工上 敬

酔漢の巻 夜天の杯  
飲まんと欲すればは酔漢 酔漢に酔漢  
酔漢に酔漢に酔漢 酔漢に酔漢に酔漢  
古風狂歌 酔漢に酔漢

うまに酔漢を

夜天の杯と「いふ」ことばさるものな、

酔漢に酔漢に酔漢

酔漢に酔漢に酔漢 酔漢に酔漢に酔漢

酔漢に酔漢に酔漢 酔漢に酔漢に酔漢

酔漢に酔漢に酔漢

昔なら「酔漢」に酔漢に酔漢に酔漢

酔漢に酔漢に酔漢に酔漢に酔漢に酔漢

酔漢に酔漢に酔漢に酔漢に酔漢に酔漢

関西書道協会 会報 附誌 3、4 合併号

一九七〇年七月十五日発行 定価二五〇円

編集・発行責任者 村越真介

送稿先 高槻市下田部町二一〇一ニ〇 久松辰行 村越宛

連絡先 現代史研究会センター 大阪(九二一)一四五七



内

内